



尚 操



〈発行所〉

鳥取県立倉吉西高等学校
尚 操 会

〒682

鳥取県 倉吉市秋喜20
倉吉西高等学校内

印刷 (有) 矢 積 印 刷

全同窓生の力と英知を結集し



未来をひらく

倉吉西高の創造へ

生徒憲章を生かして前進
 母校は今、生徒憲章を中心として、この倉吉西高に入学した一人ひとりが、かけがえないお互いの存在に目覚め、しっかり学び、鍛

え、友情を培い、素晴らしい青春を送るよう特色ある教育活動を実践しています。そして地域の期待も日まじにたかまっています。その実践の一つに国際理解教育

があります。

地球人意識を育てる

私たちは今、地球が一つの運命共同体となった国際化時代にいます。本校はこうした時代に生き、21世紀を担う若人を育てるため、英語コースを設置し、学園祭に毎年、世界に窓を開くコーナーを企画するなど努力し、皆様のご理解で国際交流基金の構想も一部実現しています。

思いやりの伝統を未来に

本校には倉女以来、人にやさしい思いやりの伝統があり、今、養護学校の生徒さんとの交流などにそれがあらわれています。この伝統的なやさしい心情をさらに世界の人々にむける国際交流を發展させたいと念願するものです。

全国の尚操会の組織化を

私はこの五月、横浜への出張の機に、神奈川県在住の旧知の同窓生の方々に、卒業以来二十数年ぶりに集まって頂き、なつかしい話とともに熱いご声援を受けました。こうした芽が各地で大きくなり、関東や関西などに支部が再建され、この組織を通して同窓の友情と連帯が築かれることを願って止みません。そして全国の多くのすぐれた先輩たちの英知と力が結集され、後輩の生徒たちの光となるようご援助をお願いします。

尚操会員の皆さん、母校を世界の倉吉西高にするためご協力下さい。
 (学校長 高多 彬臣)

花・水・木

▼倉吉西高在勤時代、次の三つのコーラスのことが忘れられませんが、▼まずは職員によるグリーンコーラス。ユーモアと包容力の中高島先生、いつもニコニコ明るい高橋先生、緻密な企画と行動力の伊佐田先生、歌い始められると瞳が一段と輝く高多先生、見た目で二、三人分の音量の福井先生など、心のハーモニー度抜群の楽しいコーラス。▼次は一学年全クラスによる合唱コンクールです。課題典は生徒職員より作詞作曲募集で、これとクラス独自の自由曲との二曲を歌うのです。この練習を通じてコーラスのきずなは固くなり友情は高まったのです。▼三つ目は音楽部の合唱です。美しいメロディーのみでなく、元気よく跳びはねるリズムカルなものや力強いものなど多彩な表現を試みました。夏休み返上の猛練習と固い結束により、第一回県合唱コンクール優勝。嬉し涙したものでした。▼以上三つのコーラスには、「友愛」という共通点があるように思えます。互いに相手を尊重し合うことがあったのです。テレビマンガやパソコンなど友人不在で育った若者の多い昨今、学校ではこの「友愛」こそ最も大切にしてほしいものと願わずにはおられません。
 (旧職員 鈴木恵一)

尚操会県外支部の今昔 その流れのみなぎりを祈って



尚操会会長
中島 恵美子

かつての倉吉高校は、昭和二十八年四月東西の両校に分離することになった。その時尚操会の存続が問題となった。独立か、東高に所属するか、それとも西高へと、大勢は西高の校舎は旧女学校であるから西高へ所属することになった。程なくして尚操会と西高同窓会との合併式が挙行されたのも記憶に新しい。

あの忌まわしい戦争、それに次ぐ学制改革のおおりで休火山の如き状態であった尚操会に活力を与えるべく支部の活性化が叫ばれ、東京、京阪神に各支部が設立された。東京は天野芳子さん、京阪神は北原登志子さんが支部長に選出された。私も各支部長宅に宿泊し共に支部設立の準備に当たったことも懐かしい。このお二方ともよく倉吉に帰られ、なかでも天野さんは毎年西高に来られ、東京での最新の手芸をいち早く生徒に教え、作品は文化祭に展示された。北原さん夙に卒業生の就職の斡旋をしていた。あのころの支部の隔年毎の支部集会、一流の中華料理店で輝くシャンデリアの下での催しは華やかなもので忘れ難い。学校側、校長、就職係の先生と私といった四、五名だった。その盛況だったこと。東京、京阪神の支部会も、支部長さんの高齢化、病気等によってその火も消えた。

歳月は流れ、昭和五十九年母校七十周年を迎えた。この時期を機に生徒職員も燃えにもえてくる。やがて生徒の男女の割合も殆ど同数となり、女子高のイメージは遠くなる。卒業生も活気を呈する。そうした中に校舎も秋喜の地に移転。新しい環境づくりのため支部会は浄財集めに大童となる。卒業生また意気を見せて大いに協力してくれる。一方支部再生の声も聞かれ、もう一度かつての隆盛を

と、去る五月校長は東京、私は京都に向った。私は京都在住の川口智子さんと昼食を共にし協力を依頼し、京阪神支部設立準備委員長就任をお願いし快諾を得た。先日十三名の準備委員の内諾を得たと報告があり、十月二日には大阪の清水寺で準備委員会を開催するとの便りも来ている。

福岡で倉女二十六期生のクラス会が開かれ、全国からの参加を見て盛況であった。その節、私は三名の方に北九州の世話役をお願いした。東京、京阪神に次いで北九州にとりかかる予定となった。我が膝下「鳥取支部」の状況はといえば――先般ある人と支部長の竹谷さんをお尋ねした。今年は還暦五人で贈物の準備中、近く支部会を開きたい等元氣よく話された。四方山話の裡に盛んなりし頃の鳥取支部を思い描く。県で初の女性県議の田中さん、西尾、遠藤両県知事夫人も尚操会会員で、活気に満ちたものであった。

最後になったが是非つけ加えたのは上小鴨支部のことである。支部会を現在に至るまで毎年開いている。雄大な雪の大山をはるかに眺めての会である。

今回は尚操会の県外支部の今昔というかその流れについて記した。いまは只、その流れがよりみなぎり、溢れていくことのみ祈っている。

同窓生だより

二十八期生同窓会 新緑の京都で

そこは京都堀川会館の三階、エレベーターの扉が開くたびに「わあ！〇〇さんに〇〇さん」と、受付で、係の私達はわくわくする思いで同期の出席者を迎えました。

時あたかも新緑の五月、はじめて京都で開催した二十八期生同窓会なのです。健在の同期生一三八名中、鳥取・島根両県より二四名、京都以東六名、京阪神より一〇名の総勢四〇名が集まって参りました。還暦すぎてどんなにか変わっていることだろうと想像していましたが、みんな年齢より若々しいのです。卒業以来という方もあったのに、初めに少々戸惑った方もすぐ思い出して、またたく間に四十六年の歳月をとびこして十七歳の乙女にかえておりました。

記念撮影をすませて、早速大広間での宴席です。旧交をあたためる会のはじめに、物故者のご冥福をお祈りいたしました。二十八期

には三〇名もあるのです。大東亜戦争のまっただ中に女学生だった私達の学年は、卒業間もなく亡くなられた方が思いのほか多かったのです。自己紹介のあととなつかしい校歌斉唱。かくし芸は皆さん、案外、控えめでした。「どじょうすくい」でもとび出すのかと期待していたのですが……事前にお願いしておくべきでした。夜は九つの部屋に分かれ、思いおもいに語りあう時間を持っていただけたようです。

明けて第二日、雨の予報が一転快晴、大型バスに乗りこんでの京都観光という次第です。会館の食堂は超満員でしたが、しっかり朝食をいただいでバスの人となりました。

昨年十一月、金箔を張り替え装い新たに開門した鹿苑寺・金閣を訪ねました。中学生の旅行団も多く来ておりましたが、若葉の美し

世話係
川口 智子

母校はいま

さわやか 西高祭

第二十一回西高祭が、梅雨明け宣言の翌日の九日から十一日まで盛大に開催されました。テーマ

「Create your generation with your spirit」(心をこめて君の時代を創造せよ)のもとに、緑したたる西高キャンパスは、青春の熱気で沸きかえりました。

一年から三年まで縦割六チームで各種催し物に挑戦、チーム毎に得点を競いました。それぞれのチーム・シンボルをかっついで市内パレード、続いて郷土芸能の披露(北条太鼓、さいとりさし、銭太鼓等)、二日目は合唱コンクール、弁論、展示、模擬店、デコレーション、三日目は舞台発表、グラウンドファイヤー等、多彩な催しをダイナミックに展開しました。

展示では陸上競技部の「食事と健康」。「二十一世紀を生き抜く食を考える」のテーマで、普段口にしていない食品の中から有害なものを取り上げて展示、さらには低温殺菌の牛乳などの健康食品を販売、参観者の多大の関心を引きました。異色の企画は「アウシュヴィッツと現代の私たち展」。グリーンピー

ス出版会、ポランド大使館などの協力を得て、ユダヤ人迫害のパネル写真や資料、アウシュヴィッツで実際に使われた囚人服の展示などを行い、平和と国際理解の学習を深めました。

合唱コンクールでは初めて倉吉



西中校区の父兄が特別出演、文部省唱歌の「花」と「ふるさと」を熱唱されました。保護者の参観が今ひとつ少なく、奮って参加をと呼びかけていたなかで、今回のステージ参加は、学校理解と協力の表われとして学園祭史上、特筆すべきものとなりました。

三日目の午後一時間あまり、

倉吉養護学校三十七人の生徒を招待、本校生三人ずつが一組となって、迷路、金魚すくいなどを思い思いに案内するなかで、交流学習を深めました。ともに生きる心の大切さをかみしめてくれたはずです。

最終日の午前は大雨が降りましたが、午後は晴れ上がり、最後のグラウンドファイヤーに存分に青春の血をたぎらせました。フォークダンス、ゴーゴー、そして花火。フィナーレ近く、夕闇に浮きあがる「EMOTION」の火文字に、さわやかな成功感と哀感を抱きつつ、力一杯「心の旅」を合唱しました。かくて「宴」は終わりました。明日からもとの学習とクラブ活動の生活——西高生は健在です。



さにみとれ、人の多さもさほど苦にはなりません。新緑を背景にして金色にかがやく三層の楼閣はさすがに美しく、京都在住の私も、混雑がこわくて新装金閣はまだ拝観していませんでしたので、同窓会に感謝した次第です。

続いて二条城、平安神宮と、どちらもお庭を含めて拝観いたしました。半日で三か所をと計画いたしましたので、少々足の弱っておいでの方には辛かったのではと心配しましたが、皆様には事故もなく、予定通り昼食会場の郵政保養所、京都洛翠に到着できました。会もいよいよ終盤、なごりを惜しみつつの昼食をとり、岡崎公園をあとにして、東山、祇園、七条と、京都駅前までの距離の短かったこと、時間の早く過ぎたこと、再会までのしほしの別れとは思いますが、やはり別れは淋しいものでした。

出席の方々に一応ご満足いただけたようで、一先ず責任の果たせたことをうれしく思います。

今回、一応の成功をみた原因は、はじめての京都での開催で珍しく、また京都以東の方々もおでましやすかったこと、迷っていた方々に電話などでおすすめたこと、住所不明で返ってきた案内状を、実家や親戚、本籍地を調べ電話で確認したうえ再発送したこと、などが考えられます。二十八期生の鳥

取県内や松江の方々は、交替で毎年同窓会を開催して下さいましたので、会員の住所は良く把握してあったようです。今回、少数の不明者をどうにかつきとめまして、全員の現住所がつかめたことは一番うれしいことでした。

思えば昨年十二月十五、十六日、京阪神在住二十八期生の世話係が、打合わせかねて二条城拝観と堀川会館宿泊のリハーサルをやった半年、「まだまだ先と思っていたのに、もうその日が来たのねえ」と、当日早めに堀川会館に集まった面々は、大阪地区三名、神戸地区二名、京都二名でした。七名で事前の仕事分担をし、当日の仕事の手分けをして、チームワークよくろしく会を盛り上げることができました。そして、何よりもありがたいことは、ご自身やご家族に少々の困難のおありの方も、農繁期その他の事情でお出ましくい方も、万難を排して京都にお集まりいただいたので、六十三歳の同窓会を記念すべき会として閉じることができました。最後に、尚操会より補助金を頂戴しましたこと、厚くお礼申しあげます。



進学 着実な進展



63年度入試は国公立大のボーダーラインアップ、私立大の中堅以下の難化の下で行われましたが、その中であっても、本校生は昨年度以上の成果を収めました。今春の進学状況は概ね次の通りです。

国公立大は最難関の東京外国語をはじめ、大阪外国語・山梨・鳥取・島根・高知・山口女子・長崎県立国際経済に現役15名、浪人1名が合格。現役の活躍が目立ち、学部も従来の農・工・理・教育に加え外国語・経済・理学部・数学科・教育学部総合科学課程と幅広くとなりました。国公立短大は鳥大医技短以下16名、私立大は、明治・法政を含む78名、私立短大47名、高看医療の専門学校57名、他の専門学校に49名の合格をみました。

また、浪人生は36名と減りましたが、現在専攻科等で意欲的に取り組んでおり、来春が楽しみです。

64年度国公立大入試は、従来のA・B・Cグループ別日程に加え、新たに分離・分割方式を採用。また、現在の高二生が受験する65年度大学入試は、私立を巻き込んだ新テストが64年12月に始められ、ますます入試制度は複雑になってきます。しかし、要は学力です。学力アップのため本校では今、懸命に取り組んでいるところですが、今後とも引き続き各先輩方のご指導をお願いするところです。

就職

(種近三郎)

求人の出足好調

62年度は当初の予想より経済界の好転により順調に皆さんが就職できたことを喜んでいきます。

概要を見ますと県内男子8、女子31、県外男子9、女子14と今年は県外がやや多くなっています。産業別では製造業24、卸・小売業13、サービス業12、金融・保険業5、公務員4、運輸・通信業4となっています。

今年度も求人活動が七月一日より始まっていますが県内外とも求人の出足は良く、特に県外は昨年とははるかに多くなっています。県内も昨年求人いただきました企業はほぼ出揃ってきました。

今年度は昨年より公務員志望者も多くなり、夏休みには就職希望者の諸君もはつきり職選びを決定し、九月十六日からの選考に向けて一杯実力養成に努力することになります。

会員の皆様にも何かと後輩のため、御協力くださいますようお願いいたします。

(西谷 健)

剣道(男、女)弓道(男) 陸上(三谷、伊藤)登山(女) 全国高校総体出場

五月二十八日から三日間、県下各会場で開かれた県高校総合体育大会で、本校勢は各部ともめざましい活躍をしました。その結果、剣道部は男女とも、団体・個人に優勝して四冠王、これは県高校剣道史上初の快挙です。弓道部男子は念願の初優勝、登山部女子は三年連続優勝。陸上競技部では、男子が八〇〇M、一一〇M障害に入賞、女子は二〇〇、四〇〇M優勝、一〇〇M二位(三谷)円盤投げ二位、槍投げ三



生徒憲章を 根づかせるために

本校は、特色ある学園づくりを目指して校則の全面的見直しを行い、六〇年三月には、新たに生徒憲章を制定しました。御案内の通り、これは生徒・教師・父母がともにあるべき本校像を展望した上での、画期的な教育目標であり、生徒の生活の指針であります。しかし、年移り人変われば、制定の意義、内容の理解も稀薄となります。そこで本年は、二週連続、年二回のLHR学習をやることにし、先回は憲章と自分とのかかわりについて生徒全員に作文を書かせ、冊子にして話し合いを行いました。

PTAも、憲章学習を今年度の活動の柱にすえ、役員会や地区別研修会で理解を深めることとしております。憲章精神の一層の具現化、これが目下の課題です。

あとがき

○私、今春の異動で本校にお世話になることになりました。高二の時、東・西に分離、本校になぞえれば二回卒に当たります。中島会長に英副を教わったこと、ヒシク醤油のえもいわれぬ匂い、割京室の甘い匂い、倉高一年時代(当時の西校舎)は会長さんと「匂い」で想い出されます。閑話休題、どうぞよろしくお願い致します。

○先般、ある会員の方から、お便りあり、曰く、「一年度ぐらいい報を出し、会員の方達に近況を知ってもらえたらいいのだが」と。その通りです。遅くなりましたがお届けします。御意見、御要望、奮ってお寄せ下さい。(教頭 永江)

昭和63年
尚操会
総会あんない
会費 二、〇〇〇円
お誘い合わせ、多数の御参加をお願いします。

とき 八月二十八日(日) 午前十時
ところ 倉吉シティホテル
(電話)二六一六一(代)